

## このコースガイドブックの使い方

### ● はじめてコースを受講するが、時間のない“あなた”へ

- ▶ まず、13ページの『コースの学習目標』を把握する。
- ▶ どのようにコースが進行するか実感がつかめなければ、19～22ページの『コース受講にあたって』に目を通す。
- ▶ 29ページのBLSアルゴリズムは、コース受講前に是非とも理解しておく。
- ▶ 29ページを見ても、流れがつかめないようであれば38ページからのBLSの写真を見て、流れをつかんでおく。
- ▶ 次に31ページのALSアルゴリズムを理解する。
- ▶ 気道管理では、53～62ページは最低限理解しておく。
- ▶ モニター・電気ショックでは74～75ページの内容があやふやでは、コースの進行に支障がある。その上で、全体に目を通す。しかし、時間的に切迫していれば、少なくとも写真と図をチェックしておく。

### ● 二次救命処置の知識・経験はあるが、ICLSの概念に馴染みのない“あなた”へ

- ▶ 12～17ページを精読する。全体の構成に目を通し、86ページからのシナリオを読む。

### ● コースを受講して、復習に使用する“あなた”へ

- ▶ 蘇生の流れとスキルの実際を示した28～84ページをチェックして復習をする。さらにシナリオを86ページから読んでみて、シナリオステーションで学習すべき内容を習得できたかどうかを確認する。

### ● インストラクターあるいはファシリテーターとなる“あなた”へ

- ▶ まず、13ページの『コースの学習目標』を把握する。受講者のレベルや背景を思い浮かべながら、14～17ページ『ICLSコースの特徴』を読んでICLSの趣旨について理解する。蘇生の流れとスキルの実際を示した28～84ページをスキルステーションのレイアウトを考えながらチェックする。
- ▶ 86ページからのシナリオを読んで、コースにどのように適応するかを考える。

